

第6回サセックス大学研修訪問団 報告レポート集



研修日程： **2016年8月12日（金）～9月4日（日）**

研修先： University of Sussex



第6回サセックス大学研修訪問団に参加して

今回この研修に参加した理由は、英語能力を上げるためでした。私は英語がとても苦手だったので、英語を喋らなきゃいけない環境に身を置けば何か変わるかもしれないと思い、以前から留学する決意をしていました。

大学は自然豊かで空気がとても綺麗で、日本と全く違いました。キャンパスには、野ウサギやリス、キツネ、カモメなどがいて、ちょっとした動物園みたいでした。寮の裏には草原が広がって、奥に進めば牛がいました。野原の上に座ったり、寝転がったりする人がたくさんいて、日本では見られない光景でした。

クラスは日本人だらけでしたが、インターナショナルフェスティバルなど参加したり、brake morningなどで外国人と話したりしました。関西圏じゃない人と仲良くなり、放課後一緒にお話したり、テニスしたりしました。イギリス人と仲良くなる機会はあまりありませんでしたが、いろいろな国の人と話せてよかったです。

授業はネイティブの先生で、どの先生も「ミスを恐れずにどんどん話していこう！」と言ってくれました。わからない単語や文章がでてきたら、わかりやすい単語で説明してくれました。私の文法が下手くそでも聞き取ろうとしてくれました。時間が経つにつれて耳も慣れてくるもので、先生の言ってる事はだいぶわかるようになりました。でも、話すことは難しかったです。

寮ではみんなで共同キッチンを使って料理したりお話ししたりしました。私は一人暮らしをしたことがなかったので、自分でメニューを決めてスーパーで買い物をしたり、洗濯したり、普段しないことを経験しました。

観光は、ブライトンとロンドンを中心にまわりました。ブライトンは一番近くて、安いお店もあって買い物しやすい場所でした。ロンドンは遠いですが、たくさん観光するところがありました。行きたいところをちゃんとリストにして、計画を立てて休日や午前授業のときなど時間を有効活用することができたので、大体まわることができました。しかし、3週間でまわりきれないので、また絶対イギリス観光したいなとおもいました。

海外で何週間も過ごすことは不安でしたが、この研修に参加して自信がついた気がします。今回の経験をいかして、英語能力向上もそうですが、海外に積極的にいきたいなと思います。

第6回サセックス大学研修訪問団に参加して

私はイギリスでとても貴重な体験をたくさんすることができました。まず1つ目に授業です。日本での授業は先生が話して生徒がそれを聞くというスタイルが多いと思いますが、私がイギリスで受けた授業は違っていました。先生は教室に入るとまず生徒に向かって”How are you?”と聞きます。私たちが戸惑って何も答えずにいるともう一度聞きます。そこでみんな各々答えて授業が始まります。授業中でも先生は生徒たちに色々な質問を投げかけます。「この単語はどんな意味だと思う?」「絵から状況を説明して」「グループでどんなことを話した?」私をはじめとても戸惑いました。日本みたいに挙手して先生が当てるなんてことしません。自分から進んで話さないといけないのです。研修前の予備知識で海外の授業は能動的に動かないといけないことは知っていましたが、いざその場に立ってみると何を話せばいいのか分からず、ただただ困惑しました。ですが、発言して間違えても先生は怒らず訂正して、質問したら易しい英語に言い換えて分かるまで説明してくれます。そのおかげで研修終盤では発言することや失敗することに不安を持たず、積極的に動けるようになりました。2つ目にイギリスにおける生活です。日本に比べてイギリスの気候は涼しく過ごしやすかったのですが、半袖でも暑い日やパーカーじゃないと外に出られない日が交互にあり、服選びが大変でした。食事においては、イギリスの料理は不味いとよく聞きますが決してそんなことはなく、レストランやスーパーで買って食べたものはどれも美味しかったです。ただお水が口に合いませんでした。また交通においては驚かされることばかりでした。電車を利用するたび遅延やキャンセルがあり、いきなり電車が止まったと思ったら何の説明もなしに走り出したり、電車に乗ろうとしているときにいきなりドアが閉まって挟まれそうになったりなど、日本との文化の違いを経験することができました。あと素晴らしいと感じたのは自然がいっぱいで空気が美味しいところです。学校内や寮の裏にはたくさん木や草原が広がっており、晴れた日には日向ぼっこする人や、スポーツをする人が多く見られました。ブライトンやルイス、ロンドンなど街の方に出てみると、昔ながらの建物が残っていたりマーケットが多かったりと、イギリス人の古いものを大切にしているところを垣間見ることができました。今回この研修に参加して得られたのは、積極性です。寮生活なので家事も全部自分でなんとかしないとイケない。観光も自分の行きたいところをピックアップして行き方から電車の乗り方まで全部調べないとイケない。分からないことにぶち当たったら自分から人に聞いて解決しないとイケない。授業中は自分から進んで発言しないとイケない。このような状況に置かれて精神的にも鍛えられたし、成長することができたと思います。また英語学習において自分の頑張らないとイケない部分をはっきり理解することができました。この経験をふまえて英語学習に力を注ぎ、将来に生かしていきたいと思っています。

第6回サセックス大学研修

報告レポート

私にとって今回の語学研修はとても有意義なものとなり、様々な経験や新しい発見に出会うことができました。

まず1つ目に授業方法です。日本とイギリスでは授業の形が異なることにまず驚きました。日本では生徒は先生からのみ教わるような形であるため一点に集中するような授業方法が主ですが、イギリスでは先生を中心にして生徒同士で常に意見を交わしクラス全体で授業を作っていくため、先生だけに集中すること無く様々な方向へと矢印が向いているように感じられた。また、先生は日本語がわからないため全て英語で行われる内容を理解しなければなりません。目を見て会話する、ボディランゲージを使って表現する、類義語を使うなど相手に伝える手段を多く持っている必要があると感じました。

2つ目は日本とは異なる環境での生活です。IT社会の現代でwifiを日本にいるときよりも使わずに生活したことはとても良い経験となりました。全く知らない土地でインターネットに頼らずに交通手段を利用し様々な場所に行くことはとても難しかったです。しかし、グループで協力することで目的地に到着することができました。日本で知らない場所に行く場合はその場でルート検索をしてインターネットに頼ってました。イギリスではwifiがなかったため、事前に場所や行き方などをチェックしておき、当日に道に迷ってしまった場合は人に道を聞く方法を取りました。電車だけでも日本とスタイルが違うため切符の買い方や乗る電車などたくさんを現地の人に質問することで慣れていきました。そして、地図を見ながら場所を確認するため日本にいるときよりも早く土地勘がついたように感じます。便利だからといって最新のテクノロジーばかりに頼っているのは目的のこと以外の面白さに気づくことができなかったです。

3つ目に寮での生活です。日本とは異なる環境の中で長期間滞在し、尚且つ一人暮らしの経験がない私が寮で生活し自炊をし自分の力だけで生活をしたことはとてもいい経験となりました。日本にいる頃から自分のことは自分でやるようにしていましたが、実際にちゃんと自分でやってみると親に頼っていた部分が多かったと感じました。特に食事の面が大変でした。毎日何を食べるか、どんな材料をどれだけ買えばいいか、全ての材料を無駄にしないように使いきれ

かなど1人分だけ作るからこそ材料が余るという問題を解決することが最も難しかったです。自分の親が食べ物を無駄にすることなく美味しい食事を用意してくれていたことにとても感謝の気持ちを持ちました。どれだけ親が偉大な存在なのかということを知りました。

4つ目にイギリスが他国への思いやりのある国であることを発見しました。イギリスのスーパーマーケットでは日本にいる時よりもフェアトレード商品をよく見かけました。フェアトレードに特化したお店もあり昔からいろんな国との貿易を行ってきている国であるがゆえに取引先の経済問題にも関心がある人が多いのだと感じました。日本では自分の生活だけを考える風習があるため取引先と自分たちの収入格差を気にしたことがある人は本当に少ないと思います。しかしイギリスでは国内にいろんな民族の人が共存しているということもあり収入格差の問題に敏感なのかもしれないと感じました。日本に帰ってからも他国でのフェアトレードへの関心について調べてみたいと思いました。

これら以外にも多くの経験や発見ができました。イギリスに行くまでは治安的な問題と自分の英語力の低さに不安を感じていたけれど、実際に行ってやってみれば案外どうにかなるものだったと思います。今後は怖がらないで様々な国に行ったり、様々な国の人とコミュニケーションを取ろうと思えるようになりたいです。また、語学力を伸ばすだけでなく人間として必要な力も身につけられました。イギリスでの努力を無駄にしないように、この力を維持・成長させられるように努力できるように頑張りたいです。

第 6 回サセックス大学研修訪問団に参加して

初海外、とても不安でした。しかし、優しく接してくれたメンバーのおかげで、その不安はいつの間にかなくなっていました。計 5 回のロンドン観光はどれも楽しく、貴重な経験ばかりでした。ロンドンへ行けない日は隣町のルイスやブライトンへ行き、外国人との交流を楽しみました。中でも散髪をしたことが印象に残っています。I leave it to you 「お任せで」だけを覚えていき、髪を切ってもらいました。また、晩飯までの時間を利用して大学内を歩き回り、ひたすら大学についての質問をしながら外国人と会話をしたり、トルコ人と仲良くなって礼拝を見学させてもらったり、ボールを持っていたモザンビーク人とバスケットをしたり、一秒一秒が楽しく、日本では味わうことのできない時間を過ごすことができました。

授業は、ネイティブの先生が教えてくれるので、とても密度の濃いものでした。分からないところを質問すると英語で答えが返ってくるので、理解しようと皆必死でした。授業を受けているうちに、僕は英語がもっと好きになっていました。また、何とか伝えることができても、若干ニュアンスがずれていると感じる場面が多く、とても悔しかったことを憶えています。僕はもっと英語を勉強し、この悔しさを晴らしたいと思っています。そして、チャンスがあるなら、大学院やその先を海外で過ごすことにも挑戦したいと思うようになりました。

最後に、一緒に三週間過ごしてくれたメンバーに感謝をしなければなりません。ロンドン観光のプランや電車の乗り換えなど、すべて調べてくれたおかげで、充実した研修をすることができました。また、リーダーは最後までみんなの安全に気を使ってくださいました。とても楽しかったです。人生で一番の夏休みでした。

体験レポート

私はこの三週間のサセックス大学研修訪問に参加し、たくさんのことを学んだ。留学としては春に行ったハワイ留学から2度目のものであり、その時に学んだことを最大限発揮できれば良いなと思い研修に挑んだ。兵庫県立大学の提供している二つの海外研修を経験した私だからこそ伝えられる情報があると思う。

ハワイ研修とイギリス研修では決定的に違うことがある。それは寮生活かであるかホームステイであるかということと、授業の目的を何とするかである。まず今回の寮生活についてである。寮生活をするにあたって、一人一部屋与えられる。同じフロアに1つの共同ルームもあたえられ、みんなで食事をしたり談笑をしたりスペースになる。寮生活をして思ったことは、寂しくならないということだ。海外にきて家族と離れ生活するにあたって寂しくならない人はあまりいないと思う。同じ大学の仲間がいるだけで救われる部分があると思う。もちろんホームステイは英語上達の最も効果的な経験だと思う。だが、不安や寂しさをかなり感じる部分があったので、イギリスで寮生活を体験できてよかったと思う。次に日々の授業についてである。イギリス研修では授業を開始する前にレベルチェックのテストを受けた。センター試験レベルの筆記試験と、一対一で行う先生との対話がテスト内容であった。テストを受ける時点でわかると思うが、イギリス研修は兵庫県立大学の提供している多くの研修の中で一番勉強をする研修である。そのため、週3回9時から16時まで授業の日があり、英語漬けの3週間を過ごした。最初はもっと遊びたいという気持ちやしんどいという気持ちが多かった。だが、日を重ねるうちにもっと学びたいという気持ちや発言できる、意見を述べる事が出来るといった喜びが増え3週間の物足りなさを実感した。特に16時まで授業のある日は、いつもと違う先生がブリティッシュ・カルチャーを教えてくれるという内容であった。日本とは違う文化、習慣をその国の人から直接教えてもらえるなんてすごく贅沢な学びであったと思う。ハワイ研修では午前中だけ授業というプログラムであった。その代り、授業後には毎日遊びに出かけハワイアンライフを楽しんだ。それを経験していた私は週4回しか遠出できない状況につまんなさを感じていたが、生活を続けるうちに16時終わりでも十分楽しめるわけであり、実際7人で寮の裏を探検したりなどたくさん楽しめた。私にはどちらがいいのかの区別はつかないしどちらも体験した私はどちらもよかったと思える。

だが、なんだかんだいって私たちはイギリス生活を勉強もやりながらも、たくさん楽しんだと思う。ロンドンには計6回訪れ、ブライトンにはもう道を覚えてしまうほどたくさん行った。たくさんの人と出会い、たくさん写真を撮り、たくさんのおいしいものを食べ、たくさん観光地を訪れた。3週間のすべてが最高の思い出になった。

いつも海外研修からかえって来てから思うことは、もっと学びたかったという寂しさである。3週間後悔をせず全力でやりきろうと意気込んでいても、確実にやり残したことがあるまま帰ってくる。まだまだ学生生活は続くわけであり、成長はできるのだと思う。イ

ギリス研修で学んだ事や、体験した貴重な事をこれからの人生に活かしていきたいと思う。どんな時でも自分のやりたいようにやらせてくれる両親、安全に研修が進むように見守ってくださる先生方、3週間一緒に過ごした7人に感謝する。

『第 6 回サセックス大学研修訪問団に参加して』

・語学授業での体験

僕はネイティブの外国人と 3 週間という長い期間授業をする経験はこれまでありませんでした。日本語で先生とのコミュニケーションが通じない分、新たに分かったことや得ることが多くありました。まず先生と生徒の関係性についてですが、日本は上下関係が明確で厳しいものがありますが、イギリスなどでは対等の関係で授業の雰囲気もアットホームな中でできるのが印象的でした。そんなアットホームな授業だからこそ感じられたことが一つありました。その実例が授業で分からない語句が出てきた際、僕は先生に聞く前に自分で辞書を用いて調べるのが普通です。ですが、この研修では分からない語句が出てきた際、辞書で調べる前に近くの生徒同士で話合うか先生に質問するという方針でした。実際に先生に質問しても英語での説明で返ってくるので当初慣れるのに時間がかかりましたが、自分で日本語の辞書で理解してしまうのではなく、せっかくの英語だけの環境にいるので“英語を英語で理解する”ことで鮮明にその語句を理解でき先生と生徒同士での英語を通じたコミュニケーションが生まれることが分かったので最も大切なことだと感じる事が出来ました。

・得られたこと、今後に生かしたいこと

この研修で得られたことは、2 つありました。一つ目は寮生活についてですが、人生で初めての経験でした。寮生活はメンバーと共に過ごす時間も多く楽しかった分、炊事等では大変なこともありました。特に洗濯では日本のように良質な水ではなく、洗濯の際汚れが取れ難いことがあったりと日本の水資源がどれほど豊かなのか改めて感じる事が出来ました。寮内での食事については、自分でイギリスのスーパーで購入した食材を使い調理していました。日本では売られていないような商品が多く、全て英語の表記なので戸惑うこともありましたが、そんな環境の中自身で食べていくために献立と食材選びなど今までしていなかったことがこの研修を通して出来るようになったのが僕自身で嬉しかったことです。

二つ目は、復路のバスの手配についての現地の大学職員との英文でのやり取りについてです。今回の研修では復路は引率の先生がいなかったことで送迎バスや飛行機の搭乗もメンバー同士で行わないといけないことになっており、準備や予定の確認を事前に意識しておくことが必要でした。バスの手配は僕が student leader だったため、メールで担当者と集合時間・場所を取り決める連絡を行いました。上手く担当者に僕の要望が伝わったのですが、その後担当者に送ったメールを引率の松山先生に確認してもらおうと文法や名詞、動詞の誤用や表現などが散見されていることを教えてもらいました。文法や単語の学習はもちろん、表現などは中学で習う英文を使ったのですが現地の人にとっては強くストレートな表現に捉えられてしまうこともあり、英語のメールの丁寧で正しい書き方を勉強したいと思いました。英文の理解や会話は 4 年後の東京オリンピックに向け来日外国人が増えていくので、世の中の流行に備えた自身の英語を学んでいきたいと、この 3 週間の研修を通して感じました。

『第6回サセックス大学研修訪問に参加して』

まず初めに私がこのプログラムに参加した理由は、自分の英語でのコミュニケーション能力を向上させることと実際に海外の雰囲気を感じてみたかったからである。将来海外で働きたいという目標があるが渡航経験なしという私にとっては、サポートがしっかりしている大学のプログラムが最適だと考え申し込んだ。

今回の研修のクラス分けは例年通りにテストにより行われた。スピーキング中心のテストであると事前から聞かされていたが、英語でのインタビューの経験が全くなかった私の成績は芳しくなかった。結局一番下のクラスで研修を受けることとなった。

私のクラスは基本的に単語、発音、リスニング、文法そしてイギリスでの出来事を英語で話し合うといった内容であった。最初は英語での説明に耳がついていかず戸惑ったが、先生もそのことを考慮してゆっくりとはっきりと話してくれた。授業中は少ない時間でも先生と会話することを心掛けた。その成果か。はじめは全く頭には思い浮かばなかった英文が研修の後半では何とか会話できる程度に浮かんでくるように。

街へ出かけたときは、道を尋ねたりしてできる限り現地の人と会話するように心がけた。初めは大変勇気が必要であるが、一度話しかければ大変親切な方ばかりだった。先生も研修中に言っていたが、たった3週間で英語能力を向上させようと思うのならば現地の人に積極的に話しかけることが大切だそうだ。もっと会話するべきだったと今は後悔している。

イギリスにはたくさんの観光地があり、休日や午前中授業の日はロンドンやブライトン、ルイスへ足を運んだ。基本的な交通手段は電車である。中でもロンドンは非常に地下鉄が発達しており、何度も乗り換えながら目的地へと向かった。観光地ではチップ等を要求してくる人がいるそうだが、幸運なことに今回遭遇することはなかった。

寮での生活は大変有意義なものであった。自分の部屋では生活に困らない必要最低限の物が備わっており、基本的には共同キッチンで自炊であった。食後は研修に参加した皆で会話をしたり、トランプをしたりと楽しい時間を過ごすことができた。

今回の研修で私が学んだことはたくさんあるが、中でも“積極的に行動をする”ということが重要であると感じた。最初は頑張ろうと意気込んだのだが、自分の実力とのギャップを実感し1週間で挫折した。しかしせっかくイギリスまで来て勉強しに来たのだからこの3週間に何か意味を見出したいと思った。だから日本ではできない、けれどイギリスではできることに挑戦しようと考えた。考え方を切り替えた後、私は授業では積極的に質問したり、授業の合間に先生と会話したりした。街では道を尋ねたり、電車で相席となった現地の人に話しかけてみたり、おこがましくも写真と一緒に撮ることを要求してみたりした。とにかく積極的になってみた。少しでも英語を使う機会を増やすことを心掛けた。この「積極性」というのは、英語はもちろん、これからの生活にも生かせると感じた。人生のターニングポイントになるような素晴らしい語学研修であったと思う。